

第三十七回 帝國議會 貴族院議事速記録第十二號

大正五年二月十八日(金曜日)

午前十時六分開議

議事日程 第十二號 大正五年二月十八日

午前十時開議

- | | |
|--|------|
| 第一 日支銀行法案 <small>(政府提出、衆議院送付、衆)</small> | 第一讀會 |
| 第二 滿洲銀行法案 <small>(議院送付、衆)</small> | 第一讀會 |
| 第三 重要物產同業組合法中改正法律案 <small>(政府提出)</small> | 第一讀會 |
| 第四 明治四十年法律第十一號中改正法律案 <small>(政府提出)</small> | 第一讀會 |
| 第五 醫師法中改正法律案 <small>(衆議院提出)</small> | 第一讀會 |

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔長谷川試補朗讀〕

去ル十五日本院ニ於テ採擇スヘキモノト議決シタル農業資金融通ニ關スル請願外十件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ
同日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
家祿賞典祿處分ニ關スル法律案外一件特別委員會

委員長 子爵前田 利定君 副委員長 黑岡 帶刀君
衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵柳 原 義 光君 副委員長 江木 千之君
一昨十六日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
國籍法中改正法律案特別委員會

委員長 子爵岡部 長 職君 副委員長 伯爵寺島誠一郎君
同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

日支銀行法案

滿洲銀行法案

同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

醫師法中改正法律案

貴族院議事速記録第十二號

大正五年二月十八日

議長ノ報告

日支銀行法案外一件 第一讀會

二二三

昨十七日政府ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

重要物產同業組合法中改正法律案

明治四十年法律第十一號中改正法律案

同日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

齒科醫師法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵松 平 賴 壽君 副委員長 男爵高木兼寛君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

簡易生命保險法案

簡易生命保險特別會計法案

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、議事日程第一、日支銀行法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、第二、滿洲銀行法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、通牒文ノ朗讀ハ本日ハ總テ省略ヲ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔左ノ送付文及議案等ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

日支銀行法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正五年二月十六日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

日支銀行法

第一章 總則

第一條 日支銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ上海ニ置ク

第二條 日支銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ三十年トス但シ株主總會

ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第三條 日支銀行ノ資本金ハ二千萬圓トシ之ヲ二十萬株ニ分チ一株ノ金額

ヲ百圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ資本金額ヲ増加スルコトヲ得

第四條 日支銀行ノ株式ハ記名式トシ日本人及支那人ニ限り所有スルコト

ヲ得

第二章 重役

第五條 日支銀行ニ總裁一人副總裁二人理事監查役各三人以上ヲ置ク
副總裁一人、理事及監查役ノ中三分ノ一以內ハ支那人タルコトヲ得

第六條 總裁及日本人タル副總裁ハ二百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府
之ヲ命シ其ノ任期ヲ五年トス

日本人タル理事ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ
候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ其ノ任期ヲ四年トス

支那人タル副總裁ハ二百株以上支那人タル理事ハ百株以上ヲ所有スル株
主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉シ政府ノ認許ヲ受クルモノトシ其ノ任
期ハ副總裁ハ五年理事ハ四年トス

監查役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉シ其
ノ任期ヲ三年トス

第七條 總裁ハ日支銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ
行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日支銀行ノ業務ヲ分
掌ス

監查役ハ日支銀行ノ業務ヲ監查ス

第八條 總裁、副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商
業ニ從事スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ
在ラス

第三章 株主總會

第九條 定時株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集
ス

第十條 臨時株主總會ハ何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監查役又ハ資本ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的タル事
項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ總裁ニ提出シテ臨時株主總會ノ
招集ヲ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第四章 營業

第十二條 日支銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 確實ナル擔保アル貸付

二 公債、社債及株式ノ應募、引受又ハ買入

三 信託ノ業務

四 諸預リ金及保護預リ

五 證券ノ割引及代金取立

六 爲替及荷爲替

七 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換

八 他銀行ノ業務代理

第十三條 日支銀行ハ官公署ノ委託ニ依リ金錢及有價證券ノ出納保管ニ關
スル事務ヲ取扱フコトヲ得

第十四條 日支銀行ハ本法ニ定メタルモノヲ除クノ外他ノ營業ヲ爲スコト
ヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五章 債券

第十五條 日支銀行ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限り債券ヲ發行スルコトヲ得
但シ其ノ貸付金及其ノ所有ニ係ル公債證券、社債券、株券ノ現在高ヲ超
過スルコトヲ得ス

債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス

第十六條 日支銀行債券ノ所有者ハ日支銀行ノ貸付金、其ノ所有ニ係ル公
債證券、社債券及株券ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ク
ル權利ヲ有ス

第十七條 債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又
ハ所有者ノ請求ニ因リ記名ト爲スコトヲ得

第十八條 日支銀行ニ於テ債券ヲ發行セムトスルコトキハ主務大臣ノ認可ヲ
受クヘシ

第十九條 日支銀行ハ券面金額金二十圓以下ノ債券ヲ發行スル場合ニハ賣
出ノ方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス
第一項ノ規定ニ依リ發行スル債券ニハ商號及商法第七十三條第二號、
第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

商法第二百四條ノ三第一項ノ期間ハ債券ノ賣出期間満了ノ日ヨリ之ヲ起

算シ其ノ登記スヘキ事項ハ賣出期間内ニ於ケル債券ノ賣上總額及商法第百七十三條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項トス

賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケル債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十條 日支銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商法第二百三條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第二十一條 日支銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ債券ヲ償還スル場合ニ於テ割増金ヲ附與スルコトヲ得

第二十二條 日支銀行ハ債券借換ノ爲一時第十五條ノ制限ニ依ラス低利ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後三月内ニ其ノ發行券面額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第六章 準備金

第二十三條 日支銀行ハ毎營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ、利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ、金銀比價ノ變動ニ備フル爲利益ノ百分ノ五以上ヲ積立ツベシ

第七章 政府ノ監督及補助

第二十四條 政府ハ日支銀行ノ業務ヲ監督ス

第二十五條 日支銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 日支銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 主務大臣ハ日支銀行ニ於テ法律命令若ハ定款ニ背戾シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ政府ハ總裁、日本人タル副總裁、理事ヲ解職シ又ハ監査役、支那人タル副總裁、理事ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第二十八條 日支銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル報告書ヲ提出スヘシ

第二十九條 政府ハ日支銀行監理官ヲ置キ日支銀行ノ業務ヲ監視セシム

第三十條 日支銀行監理官ハ何時ニテモ日支銀行ノ金庫、帳簿、諸般ノ文書及財産ヲ検査スルコトヲ得

日支銀行監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日支銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日支銀行監理官ハ株主總會其ノ他ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十一條 株主ニ配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本ニ對シ一年百分ノ六ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ開業初期ノ末日ヨリ十年ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ額ハ拂込資本金額ノ百分ノ六ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第三十二條 日支銀行ニ於テ左ノ事犯アリタルトキハ總裁、副總裁及理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ事犯ニ關セサル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 本法ニ於テ認可ヲ受クヘキ場合ニ認可ヲ受ケサルトキ

二 第十五條、第二十條、第二十二條第二項、第二十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

第三十三條 日支銀行ノ總裁、副總裁又ハ理事第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第三十四條 政府ハ設立委員ヲ命シ日支銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十五條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スヘシ

第三十六條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ日支銀行設立ノ免許ヲ申請スヘシ

前項ノ免許ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第三十七條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日支銀行總裁ニ引渡スヘシ

第三十八條 設立初度ノ日本人タル理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命

ス

滿洲銀行法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正五年二月十六日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

滿洲銀行法

第一章 總則

第一條 滿洲銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ奉天ニ置ク

第二條 滿洲銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ五十年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第三條 滿洲銀行ノ資本金ハ一千萬圓トシ之ヲ二十萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ五十圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ資本金額ヲ増加スルコトヲ得

第四條 滿洲銀行ノ株式ハ記名式トシ日本人及支那人ニ限り所有スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 滿洲銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁及副總裁ハ二百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ其ノ任期ヲ四年トス

監查役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉シ其ノ任期ヲ三年トス

第七條 總裁ハ滿洲銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ滿洲銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ滿洲銀行ノ業務ヲ監查ス

第八條 總裁、副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商

業ニ從事スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 定時株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監查役又ハ資本ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ總裁ニ提出シテ臨時株主總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第四章 營業

第十二條 滿洲銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 年賦償還又ハ定期償還ノ方法ニ依リ不動産、商租權其ノ他不動産上ノ權利ヲ擔保トスル貸付

二 鐵道其ノ他確實ナル擔保アル貸付

三 公債證券、社債券、株券其ノ他ノ有價證券又ハ貨物ヲ質トスル貸付

四 諸預リ金及保護預リ

五 證券ノ割引及代金取立

六 爲替及荷爲替

七 信託ノ業務

八 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換

九 他銀行ノ業務代理

前項ノ外營業上餘裕金アルトキハ公債、社債及株式ノ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得

第十三條 滿洲銀行ハ官公署ノ委託ニ依リ金錢及有價證券ノ出納保管ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ得

第十四條 滿洲銀行ハ本法ニ定メタルモノヲ除クノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五章 債券

第十五條 滿洲銀行ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限り債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス

第十六條 滿洲銀行債券ノ所有者ハ滿洲銀行ノ貸付金ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十七條 債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名ト爲スコトヲ得

第十八條 滿洲銀行ニ於テ債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 滿洲銀行ハ券面金額二十圓以下ノ債券ヲ發行スル場合ニハ賣出ノ方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス

第一項ノ規定ニ依リ發行スル債券ニハ商號及商法第七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

商法第二百四條ノ第三項ノ期間ハ債券ノ賣出期間満了ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ登記スヘキ事項ハ賣出期間内ニ於ケル債券ノ賣上總額及商法第一百七十三條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項トス

賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケル債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十條 滿洲銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商法第二百三條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第二十一條 滿洲銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ債券ヲ償還スル場合ニ於テ割増金ヲ附與スルコトヲ得

第二十二條 滿洲銀行ハ債券借換ノ爲一時第十五條ノ制限ニ依ラス低利ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後三月内ニ其ノ發行券面額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第六章 準備金

第二十三條 滿洲銀行ハ毎營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ、利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第二十四條 政府ハ滿洲銀行ノ業務ヲ監督ス

第二十五條 滿洲銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 滿洲銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 滿洲銀行ハ年賦償還貸付金ノ利子ニ付毎營業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ最高歩合ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二十八條 主務大臣ハ滿洲銀行ニ於テ法律命令若ハ定款ニ背戾シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ政府ハ總裁、副總裁、理事ヲ解職シ又ハ監査役ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 滿洲銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル報告書ヲ提出スヘシ

第三十條 政府ハ滿洲銀行監理官ヲ置キ滿洲銀行ヲ監視セシム

第三十一條 滿洲銀行監理官ハ何時ニテモ滿洲銀行ノ金庫、帳簿、諸般ノ文書及財産ヲ檢査スルコトヲ得

滿洲銀行監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ滿洲銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

滿洲銀行監理官ハ株主總會其ノ他ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十二條 株主ニ配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本ニ對シ一年百分ノ六ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ開業初期ノ末日ヨリ十年ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ額ハ拂込資本金額ノ百分ノ六ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第三十三條 滿洲銀行ニ於テ左ノ事犯アリタルトキハ總裁、副總裁及理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ事犯ニ關セサル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本法ニ依リ認可ヲ受クヘキ場合ニ認可ヲ受ケサルトキ

二 第十五條、第二十條、第二十二條第二項、第二十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

第三十四條 滿洲銀行ノ總裁、副總裁又ハ理事第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第三十五條 政府ハ設立委員ヲ命シ滿洲銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十六條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スヘシ

第三十七條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ滿洲銀行設立ノ免許ヲ申請スヘシ

前項ノ免許ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第三十八條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ滿洲銀行總裁ニ引渡スヘシ

第三十九條 設立初度ノ理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

〔國務大臣武富時敏君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(武富時敏君) 日支兩國間ノ經濟ノ關係ヲ親密ニ致シマシテ、支那ニ於ケル金融上ノ便益ヲ計ルト同時ニ、我が經濟ノ發展ヲ期スルコトハ目下ノ情勢ニ於テ最モ緊要ト致ス所デゴザイマスル、而シテ此目的ヲ達スル爲ニハ支那ニ於ケル各種ノ經濟借款ニ應ジ、又ハ事業資金ヲ供給スル機關ガナケレバナラス、然ルニ今我國ノ金融機關ト致シマシテハ、橫濱正金銀行、臺灣銀行等ガゴザイマスルガ、橫濱正金銀行ノ主タル營業ノ範圍ハ爲替資金ノ融通ヲ與ヘルニアルノデアリマシテ、廣ク彼ノ地ノ借款ニ應ジタリ、又ハ事業資金ヲ供給スルコトハ其銀行ノ性質上之ヲ望ムコトハ出來ナイノデアリマス、臺灣銀行ニ至リマシテハ、銀行券發行ノ特權ヲ有テ居リマシテ、主トシテ臺灣ノ經濟發展ニ任ズベキモノデアリマシテ、今其餘力ヲ支那ノ方面ニ延ベルノハ素ヨリ妨ハゴザイマセヌガ、是亦其性質上資金放ノ機關ト致シマシテハ餘リ適當デゴザイマセヌ、ソレ故ニ是等ノ闕陷ヲ補フ爲ニ日支銀行ヲ設立イタシマシテ、主トシテ經濟借款及事業資金ノ供給ニ當ラシムルト同時ニ、必要ナル一般銀行業モ兼テ營マシムルガ我が經濟的ノ地歩ヲ進メ、又此

銀行ヲ設立スルニ當ッテ彼我共同ノ資本ヲ以テ、併セテ彼ノ國人ノ便益ヲモ計ルト云フコトガ日支兩國ノ經濟ノ關係ヲ密著ナラシムル所以デゴザイマスカラ、此日支銀行ヲ設立シテ其目的ヲ達シタイト考ヘルノデアリマス、既ニ衆議院モ通過シテ參リマシタ此案デゴザイマスカラ、尙ホ此上慎重御審議下サレマシテ御協賛ヲ願ヒタイト存ジマス、又滿洲地方ニ於キマシテ我が金融上ノ既設ノ機關ト致シマシテハ、爲替銀行デナケレバ紙幣發行銀行又ハ商業銀行デゴザイマシテ、其性質上不動産抵當ノ貸附又ハ長期事業ノ資金ノ貸附ニ適スル機關ガゴザイマセヌ、ソレ故ニ何等カ其闕陷ヲ補フベキ適當ナル金融機關ノ設立ヲ必要トスルノデゴザイマスカラ、政府ハ先キニ橫濱正金銀行ニ資金ヲ融通イタシマシテ、特別貸附ノ途ヲ開カシメテ、ソレヲ以テ一時ノ急ニ應ジマシタガ、爾來相當ノ成績ノ見ルベキコトノ無イデハゴザイマセヌケレドモ、今ヤ滿洲地方ニ對スル我が政治上並ニ經濟上ノ關係ハ日ニ月ニ密接ヲ加ヘテ參リマス、殊ニ昨年日支新條約ノ締結以來ハ我が國人ノ彼地ニ於ケル地歩ハ益々安固トナリマシテ、事業ノ經營上一段ノ便益ヲ増スコトニナリマシタノデゴザイマスカラ、之ニ應ズベキ我が金融機關ヲ整備スルノ必要ガ起ッテ參リマシタノデゴザイマス、是ガ特ニ滿洲銀行ヲ設立シテ事業資金ノ供給ヲ圓滿ニセシメタイト認メタ所以デゴザイマス、是モ衆議院ヲ通過シテ參リマシタノデゴザイマスカラ、尙ホ此上慎重ニ御審議ヲ下サレマシテ、速ニ御協賛ヲ願ヒタイト存ジマス

○黑岡帶刀君 質問ヲ……私ハ大藏大臣ニチヨット質問ラシタイ、此日支銀行本店ヲ上海ニ置クト云フコトデゴザイマスガ、上海ニハ日本ノ居留地、英國ノ居留地、佛蘭西ノ居留地、米國ノ居留地、ソレカラ又支那ノ城内ト、皆其警察ヲ異ニシテ居リマス、サウシテ銀行等ハ其本國ノ警察ガ保護シテ居ルヤウデアリマスガ、此上海ニ日支銀行ヲ置クト云フノハ、日本ノ居留地ニ置ク積リデアリマスガ、チヨット伺ヒタイノデゴザイマス

〔國務大臣武富時敏君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(武富時敏君) 日支銀行ノ本店ハ上海ノ居留地ニ置キマス積リデゴザイマス

○黑岡帶刀君 上海ノ居留地ト申シマス中ニ英國ノ專管居留地、佛蘭西ノ專管居留地、米國ノ專管居留地、日本ノ專管居留地ト斯ウゴザイマスガ、各國ノ居留地トモ皆各國デ各警察ヲ異ニシテ居ルヤウデアリマスガ、何所ノ居

留地ニ……

〔國務大臣武富時敏君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(武富時敏君) 日本ノ居留地ニ設立ヲ致シマス積リデゴザイマス
○男爵田健治郎君 質問ガナイヤウデアリマスカラ、私ハ特別委員ノ動議ヲ提出イタシマス、此日支銀行及滿洲銀行法案ハ何レモ重要ナ問題デゴザイマシテ、而シテ多少關係モアルヤウデゴザイマスカラ、特別委員ヲ十五名トセラレマシテ、議長ノ指名ト云フコトニ願ヒタイト思ヒマス、之ニ付テ尙ホ希望ヲ申述ベテ置キタウゴザイマス、東洋拓殖會社ノ改正法律案ガ衆議院ノ議ニ繫ツテ居ルヤウデゴザイマス、是ガ自然廻ッテ來マスカラ、彼ト是トハ餘ホド關係ガアルヤウデアリマスカラ、同一委員ニ付託セラレタイト云フ希望ヲ申述ベテ置キマス

○谷森眞男君 贊成

○子爵岡部長職君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 田男爵ニ念ノ爲ニ申上ゲテ置キタイト存ジマスガ、唯今最後ニ御述ベニナリマシタ東洋拓殖會社ニ關スル法案ノコトハ、單ニ御希望ト議長ハ伺ッテ置クコトニ致シタイト思ヒマス、其案ガ衆議院カラ送付セラレマシタトキニ更ニ御發議ガアル方ガ宜シカラウト考ヘマス

○男爵田健治郎君 希望ヲ申述ベタニ過ギマセス

○議長(公爵德川家達君) 田男爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

日支銀行法案外一件特別委員

伯爵柳澤 保惠君	子爵岡部 長職君	子爵松平 直平君
子爵水野 直君	男爵後藤 新平君	岡野 敬次郎君
男爵本多 政以君	男爵東郷 安君	谷森 眞男君
中島 永元君	仁尾 惟茂君	若槻 禮次郎君
勝田 主計君	佐藤友右衛門君	安田 善三郎君

○議長(公爵德川家達君) 此際諸君ニ御諮リヲ致シタイコトガゴザイマス、決算第一、第三、第四ノ分科會主査ヨリ退席ノ要求ガ出マシタ、許可ヲ致シ

テ御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、議長ハモウ一事御諮リヲ致シタイコトガゴザイマス、先刻御報告ヲ致サセマシタ通り、昨日衆議院ヨリ簡易生命保險法案竝ニ簡易生命保險特別會計法案ノ兩案ノ送付ヲ受ケマシタ、此際議事日程ヲ變更イタシマシテ、兩案ノ第一讀會ヲ開イテハ如何デゴザイマセウカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 簡易生命保險法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、簡易生命保險特別會計法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會
簡易生命保險法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正五年二月十七日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵德川家達殿
簡易生命保險法

第一條 簡易生命保險ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 簡易生命保險事業ハ保險會社之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 簡易生命保險ニ於テハ政府カ保險契約者又ハ第三者ノ生死ニ關シ保險金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ保險契約者カ對價トシテ政府ニ保險料ヲ支拂フヘキコトヲ約スルモノトス

簡易生命保險ノ種類、被保險者ノ年齢、保險料及被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額ノ計算ノ基礎ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 簡易生命保險ノ保險金額ハ三百圓以下トス

同一ノ被保險者ニ付數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ保險金額ノ總額ハ前項ノ制限ニ依ル

第五條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第六條 保險契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ヲ作成シ之ヲ保險契約者ニ交付ス

保險證書ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 保險契約ノ効力ハ保險證書作成ノ日ニ始マル

第八條 被保險者カ保險契約ノ効力發生後二年内ニ災害又ハ傳染病豫防法第一條第一項ノ傳染病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金額ノ一部ヲ支拂ハサルコトヲ得

第九條 保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定セサルトキハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第十條 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其ノ第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス

第十一條 保險契約者ハ保險金額又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル還付金額ノ支拂ノ事由發生スル迄ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スルコトヲ得但シ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナル場合ニ於テ保險契約者カ別段ノ意志ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 保險金額又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル還付金額ヲ受取ルヘキ權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ命令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 前條ノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十四條 保險契約者ハ被保險者ノ同意ヲ得テ第三者ヲシテ保險契約ニ因ル權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

前項ノ承繼ハ政府ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ政府ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條 保險契約者又ハ被保險者ノ詐欺ニ因ル保險契約ハ之ヲ無効トス

第十六條 保險契約者ハ何時ニテモ保險契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ効力ヲ生ス

第十七條 保險契約者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險契約ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 保險契約者保險料ヲ拂込マシテ命令ノ定ムル所ニ依リ猶豫スル期間ヲ經過シタルトキハ保險契約ハ其ノ効力ヲ失フ

前項ノ規定ハ保險契約者カ前項ノ期間經過後一月内ニ其ノ契約ヲ保險料拂濟保險契約ニ變更セムコトヲ請求シタルトキハ之ヲ適用セス

第十九條 前條第一項ノ場合ニ於テハ保險契約者ハ保險契約ノ失効後一年

内ニ限リ其ノ復活ノ申込ヲ爲スコトヲ得

第二十條 前條ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ニ保險契約復活ノ旨ヲ記載ス

復活ノ効力ハ前項記載ノ日ニ發生ス

第二十一條 保險契約復活シタルトキハ始ヨリ其ノ効力ヲ失ハサリシモノト看做ス

第二十二條 第十五條及商法第四百二十九條ノ規定ハ保險契約復活ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 被保險者カ保險契約復活ノ効力發生後一年内ニ災害又ハ傳染病豫防法第一條第一項ノ傳染病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金額ノ一部ヲ支拂ハサルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ被保險者カ保險契約ノ効力發生後二年内ニ死亡シタルトキハ第八條ノ規定ニ依ル

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

一 被保險者カ保險契約又ハ其ノ復活ノ効力發生後二年内ニ自殺シタルトキ

二 被保險者カ決闘其ノ他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ

三 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但シ其ノ者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ政府ハ其ノ殘額ヲ支拂フ

四 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

五 被保險者ノ死亡シタル場合ニ於テ保險契約者及保險金額ヲ受取ルヘキ者カ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ通知ヲ發セサルトキ

第二十五條 第十六條第一項、第十七條、第十八條第一項及前條ノ場合ニ於テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ノ一部ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第三號ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第二十六條 政府ハ保險契約者ノ請求アルトキハ保險契約ノ解除ニ因リ還付スヘキ金額ノ範圍内ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ貸付ヲ爲ス

保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ前項ノ請求ニハ其ノ者ノ同

意アルコトヲ要ス

第二十七條 前條ノ規定ニ依リ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ保險金額ヲ支拂フヘキトキハ貸付金及其ノ利息ハ保險金額ヨリ之ヲ控除ス

第二十八條 當該官署カ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金額又ハ保險契約者若ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ還付スヘキ金額ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ支拂ハ之ヲ有效トス

第二十九條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ簡易生命保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルニハ簡易生命保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條 前條ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第三十一條 簡易生命保險審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 簡易生命保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第三十三條 簡易生命保險ノ事務ニ關スル郵便物ハ無料ト爲スコトヲ得

第三十四條 商法第三百九十九條、第四百一條、第四百六條、第四百十七條、第四百二十八條、第四百二十八條ノ四、第四百二十九條及第四百三十二條ノ二ノ規定ハ簡易生命保險ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

簡易生命保險特別會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正五年二月十七日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

簡易生命保險特別會計法

第一條 簡易生命保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ保險料、積立金ヨリ生スル收入、毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルル金額及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ保險金、還付金、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第三條 本會計ニ於ケル歳入總額ノ歳出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ歳計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第四條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第五條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣箕浦勝人君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(箕浦勝人君) 本案提出ノ理由ヲ一言イタシマス、簡易生命保險ノコトハ久シイ以前ヨリ攷究サレタル所ノ一ノ宿題デアリマス、其沿革ノ概略ヲ申シマスルト、明治三十三年ニ郵便電信ノ諸法案ヲ制定サレマス時分ニ、一度郵便爲替法ノ内ニ郵便保險ト云フ名ヲ以テマシテ編入セラレテ、將ニ議會ニ提出ヲサレムトスルマデニ及ンダコトモアッタノデアリマスルガ、尙ホ攷究ヲ重ヌルノ必要アリトシテ、其際ハ提出ヲ見合セニナツテ居リマス、其後懸案トシテ絶エズ攷究ヲサレテ居リマシタガ、第二十七議會ニ於テハ平田内務大臣、又第三十一議會ニ於キマシテハ山本農商務大臣ヨリ、ソレノ議會ニ於テ此小口保險官營ノ必要ナルコトヲ言明ヲサレテ居リマス、尙ホ大正三年ニ於キマシテハ衆議院ニ於テ建議案ノ提出ニナツテ居リマス、其年五月ニナリマシテ政府ハ愈々其調査ノ歩ヲ進メマシテ、内閣ニ一ノ調査委員會ヲ……小口保險制度調査委員會ト云フモノヲ設ケマシテ、内閣、内務、大藏、司法、文部、農商務、遞信等ノ各廳ヨリ委員ヲ出シマシテ調査ヲ進メマシテ、審議ヲ重ネマシタル末一ノ成案ヲ得マシテ、其成案ヲ各府縣長官、或ハ商業會議所、其他當業者ハ無論デアリマスガ、協會或ハ學會等凡ソ百有餘箇所ニ出シマシテ其意見ヲ求メタノデアリマス、其各所ヨリ出シマシタル所ノ意見ハ、簡條ニ付テハ多少修正ノ意見ガアルノデアリマスルガ、大體ニ於テハ當業者ヲ除クノ外ハ何レモ此案ノ必要ナルコトヲ説キマシテ、速ニ實施ノ運ビニ至ラムコトヲ望ムト云フノガ多數デアリマシタ、尙ホ政府ニ於キマシテハソレ等ノ答案ヲ參酌イタシマシテ攷究ヲ重ネタル末、遂ニ本回ノ議會ニ提出スルト云フマデノ運ビニ相成ッタノデアリマス、事新シク申スマデモナイコトデア

リマスルガ、貧富ノ懸隔ヨリ起ル所ノ各種ノ困陥ヲ救済シテ、社會組織ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲ニハ、多數ノ下級社會ヲシテ能ク恆ノ產ヲ治メ、恆ノ心ヲ持シ、秩序アル生活ノ狀態ヲ保タシムル途ヲ講ズルト云フコトガ必要ト考ヘルノデアリマス、其方法ハ色ミアルコト考ヘマスガ、今此ニ提出ヲ致シマシタル所ノ、本案ノ目的ト致ス所ノ、比較的低廉ナル保險料ヲ以テ、又簡易ナル方法ニ依ッテ、鞏固ナル基礎ノ上ニ多數ノ下級民ヲシテ保險ノ惠澤ニ浴セシムルト云フコトモ、確カニ其方法ノ一ツデアルト信ズルノデアリマス、我邦ノ生命保險ノ事業ハ他ノ諸般ノ事業中ニ於キマシテ、比較の堅實ナル發達ヲナシテ參ッタ所ノ事業ノ一ツデアリマス、將來ニ於キマシデモ益々發達ヲスルト云フ運命ヲ有ッテ居リマス、力ヲ有ッテ居ルノデアリマス、此普通ノ生命保險ガ段々ト發達ヲシテ參リマスルト、自然ノ結果トシテ更ニ別種ノ方法ヲ以テ、簡易ナル方法ヲ以テ、小口ノ保險ヲ經營スルト云フコトノ必要ガ生ジテ參ルノデアリマス、近時ノ趨勢ヲ見マスレバ生命保險ノ保險金ト云フモノハ、保險金額ガ年々増加スル、大キクナルノデアリマス、金額ガ大キクナルノデアリマス、最初創始時代ニ於キマシテハ小サイ口ノ保險ガ多イノデアリマスガ、段々ト發達ヲシテ參リマスニ隨ッテ金額ガ大キクナッテ參リマス、近イ所ノ例ヲ舉ゲテ見マスルト、明治三十九年ニ於キマシテハ創始以來今日ニ至リマスル古イ所ノ保險金總テヲ合シマシテ年末ノ現在平均額ガ何ホドニナッテ居ルカト申シマス、三百三十七圓ト云フノガ平均額ニナッテ居リマス、然ルニ其年ノ明治三十九年度ノ、其年ノ新契約……新ニ契約スル其新契約ノ平均額ハ幾ラカト申シマス、四百十八圓ト斯ウ云フコトニナッテ居リマス、是ハ古イ時代ニハ小額ノモノガ多イ、段々年所ヲ經ルニ隨ッテ小サイ金額ガ少クナッテ大キイ金額ガ増シテ來ル、斯ウ云フコトデアリマス、ソレヲ此年末ノ現在額ト云フモノハ古イノモ新シイノモ一切混淆シタ總高ノ平均デアリマス、新契約ト申シマスルノハ其年ニ新ニ契約スル金額デアリマス、ソレヲ比較シマスルト今ノヤウニ年末現在高ハ三百三十七圓、ソレカラ新契約ニ屬スルモノハ四百十八圓ト斯ウナッテ居リマスルガ、更ニ大正三年ニ飛ビマシテ如何ナル變化ヲ生ジテ居ルカト見マスルト、大正三年ノ年末ノ平均額ガ五百八十三圓ト云フコトニナッテ居リマス、五百八十三圓……然ルニ其年ノ新契約ハ如何ホドデアアルカト申シマスルト、七百三圓ト斯様ニナッテ、大ニ其金額ガ増加イタシテ參ッテ居リマス、是ハ畢竟自然ノ趨勢デアルト考ヘルノデアリマ

ス、金高ニ拘ラズ取扱ノ手數ハ同一デアリマス故ニ、成ルベク金高ノ多イ方が會社ニ取ッテ利益デアアル、又殊ニ勧誘者ナドニ取ッテハ利益デアリマス故ニ、自然ニ其點カラシテ金高ガ大キクナッテ參ルト云フ傾ガアル、又一面社會民度ノ進歩ニ依リマシテ小額ノモノデハ満足ガ出來ナイト云フコトニナッテ、ドウシテモ額ヲ高ク多クシナケレバ満足ガ出來ヌト云フコトニナリマス、又大キナ高ノ保險ヲ申込ムト云フ餘力ガ段々増シテ來タト云フ原因ヨリ致シテ、自然此保險金額ト云フモノガ増シテ參ル、大キクナッテ參ルト云フ傾ガアルコト考ヘルノデアリマス、又保險バカリ斯ルコトデハアリマセヌガ、貨幣ノ位ガ下ガルト云フ爲ニ、呼ビ聲ガ段々大キクナルト云フコトモゴザイマスルシ、彼此レノコトデ年々ニ此保險金額ノ平均額ト云フモノガ上ッテ參ルノデアリマス、其狀況カラ見マスルト多數ノ下級ノ社會ガ段々此保險ノ惠澤ニ浴スル機會カラ遠ザカルト云フ傾ガアルノデアリマス、ソレデアリマスルカラ其保險事業ノ發達ヲ致シマシタ或ル程度ニ於キマシテハ、自然ノ結果トシテ別ニ下級民ノ爲ニ……下級民ヲシテ保險ノ惠澤ニ浴セシムル仕組、別段ノ仕組ガ必要ニナッテ參ルノデアリマス、現ニ此點ニ付キマシテハ保險業者カラ提出イタシマシテアル書類ノ中ニモ其事ガ認メテアルノデアリマス、ソレハ斯様ニ申シテ居ル、我國ノ現狀、下級民ノ爲ニスル簡易保險ノ機關ノ備ハラザルコトハ一大關點デアアルト斯様ニ認メテ居ル、一大關點デアアルト認メテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、今日ノ如キ趨勢ニ鑑ミテ見マスルト、如何ニモ此下級民ノ爲ニハ此關陷ヲ補フ必要ノアルト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、此點ニ付テハソレ故ニ多クノ争ノ起ルベキ道理ハナイノデアリマスルガ、併ナガラ其下級民ノ爲ニスル簡易保險ノ機關ガ必要デアルト致シマシタ所デ、扨何人ガ之ヲ經營スルカト申シマスルト色ミ議論ガ生ズルノデアリマス、例ヘバ官營ニスル、民營ニスル、官營ノ獨占ニスルカ、民營ノ自由競争ニ任セルカ、斯ウ云フ問題ニナリマスルト色ミ議論ガ生ジテ參ルノデアリマスルガ、政府ハ官營獨占ト云フ方ヲ採ッタノデアリマス、此小口ノ保險ト普通ノ保險トハ自ラ別ナ方法ヲ以テ扱ヒヲセヌケレバナラヌノデアリマスルガ、此簡易保險ト申ス方ハ何人ガ經營イタシマシテモ自然獨占ノ傾ヲ有ッテ居ルモノト考ヘラレルノデアリマス、誠ニ小サナ小口ノ金ヲ集メ、而カモ其集メ方ガ此小口ノ金ヲ細分シテ年々一度トカ二度トカ云フニアラズシテ毎月納メル、或ハ每週取ルト云フ風ニ小サク之ヲ小切ッテ取ルト云フコトデアリマスカ

ラ、非常ニ手數ノ掛ルコトデアル、隨テ費用モ餘計掛ルト云フコトデアリマス、又被保險者ノ選擇ガ醫者ノ診斷ヲ以テ健康者ヲ取ルト云フコトニナラズシテ、素人ノ目ヲ以テ之ヲ選定イタスト云フコトニナリマスルカラ、死亡率ト云フモノガ非常ニ高マルノデアリマス、普通ノ保險デアリマス云フト健康者デアリマスルカラ死亡率ガ低イ、ガ此簡易保險ノ方ハ醫者ノ診察ヲ用ヒナイノデアリマスル、健康者ノ……故ニ死亡率ノ標準ガ普通ノ死亡率ト云フモノニ多少ノ割増ヲシテ定メデアリマスノデ、健康者モ不健康者モ合シタ所ノ普通ノ一般ノ死亡率ト云フモノニ多少ノ割掛ケヲシテ定メテ居リマスカラ、死亡率ガ多イ、餘ホド高イノデアリマス、ソレ故ニドウシテモ餘ホドノ大仕掛デ以テ之ヲ經營シナケレバ引合ハナイ、平均ガ取レヌノデアアル、迪モ小仕掛ノ仕掛デアリマシテハ其平均ガドウシテモ取レヌト云フコトニ相成ルノデアリマス、ソレ故ニ之ヲ民營ニ致シマシテ……民營ノ自由競争ニ任セマシタラドウ云フコトニナルカト申シマスレバ、必ズ一度ハ自由競争ニ任セテ置キマシテハ、何年間カ後ニハ必ズ有力ナル一ツ或ハ二ツノ會社ニ統一サレテ、其會社ニ獨占セラレテシマフト云フ傾ガアル、又獨占……統一シテ獨占シナケレバ大仕掛ノ經營ヲスルコトハ出來ナイ、又大仕掛デナケレバ簡易保險ト云フモノハ營マレヌモノデゴザイマスカラ、自然サウ云フコトニ相成ルノデアリマス、自由競争ニ依ッテ結局ハ獨占トナリマスガ、諸獨占トナル時期ニ達シマスルマデノ間ノ手續、道行ヲ考ヘテ見マスルト、先ヅ其初メハ誠ニ激烈ナル競争ヲ起シ、其末種々混雜ヲ重ネタ結果、優勝劣敗ノ爲ニ強イ者ガ後ニ殘ルト云フコトニナリマス、其爲ニ下層ノ……多數ノ下級社會ノ者ノ粒々辛苦ノ結果ガ競争ノ犠牲トナッテ、誠ニ慘澹タル悲劇ヲ現出イタサナケレバナラヌト云フコトニ相成リマスノデアリマスルカラ、ソコデ此弊害ヲバ避ケタイ、又併ナガラ其一ツカニツノ會社ニ獨占セラレテシマッタラ、ソレダケデ事ガ定マリ、最早其後ニ於テ何等ノ紛擾ヲモ醸サヌカト云フト決シテサウデナイ、一度有力ナル一ニノ會社ニ獨占セラレタ後ハドウ云フコトニナルカト言ヒマスレバ、其會社ハナカ……繁昌シテ餘程利益ガ多クナル、其利益ガ多クナレバナホド之ニ對スル社會ノ感情ト……衝突ヲ起スノデアリマシテ、此獨占會社ニ對シテ非常ニ社會カラ反對モ起リ攻撃ガ起ッテ來ル譯デアリマシテ、遂ニハソレヲ政府ニ於テ買收ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ議論モ起リマセウ、之ヲ救済スルニハドウシテモ斯ウ云フ方法ヲ以テシナケレバナラヌト云フヤ

ウナ色ニヤカマシイ問題ヲ必然起シテ來ルノデアリマス、ノデアリマスルカラ政府ノ今回執リマシタ官營獨占ニシマスレバ、誠ニ初メヨリ平穩ノ途ニ依ッテ其目的ヲ達スルコトガ出來マス、即チ左様ナ競争ノ弊モ避ケ、中間ニ起ル所ノ種々ナル悲劇ノ幕ヲ省クコトモ出來ルノデアリマスカラ、先ヅ此官營獨占ノ方法ニ依ルガ最モ適當デアラウト考ヘマス、尙又前申シマシタ通りニ簡易保險ハ誠ニ費用ノ掛ルモノデアリマスルカラ、自然保險料ト云フモノガ高クナルノデアリマス、普通ノ保險ニ較ベテ保險料ガ高クナルノデアリマス、ソコデ之ヲ官營ニ致シマスレバ、官營ハ即チ非營利デアッテ、營利ト云フコトヲ目的ニ致シマセヌカラ、決シテ之ニ依ッテ儲ケルニハ及バヌノデアリマス、株主ニ配當ヲスルニモ及バズ、役員ノ賞與金モ澤山ナ賞與ヲ出ス必要ハアリマズ、要スルニ官營ナラバ一切利益ヲ儲ケルト云フ必要ハ一ツモナイノデアリマスルカラ、有ラユル費用ヲ引イタモノヲ成ルベク多ク被保險人等ノ利益ニナルヤウニスルコトガ出來マス、政府ニ於テハ之ニ依ッテ儲ケナケレバナラヌト云フ必要ハアリマセヌカラ、其點カラ申シマシテモ割合ニ保險料ハ安クナル譯デアリマス、殊ニ又今回企テマシタモノハ全國ニ互ッテ居ル所ノ七千有餘ノ郵便局ヲ利用イタス積リデアリマスルカラ、ソレニ依ッテモ餘程費用ハ省ケルノデアリマス、固定資本ガ省ケル上ニ經費モ大ニ省ケマスルノデ、ソレ是レシマスルト歐米各國ノ簡易保險ニ對シテ計算ヲ致シテ見マスルト、餘程此保險料ト云フモノハ安クナルノデアリマス、一體普通ノ保險料ニ較ベテ見マスレバ簡易保險ノ保險料ハ高イノデアリマスガ、併ナガラ同ジ種類ノ簡易保險ニ就テ見マスレバ、獨逸ナドノ保險料ハ附加保險料ハ純保險料ノ六割七割ト云フヤウナ非常ニ高イモノデアリマス、併シ今回此法案ニ定メマスル所ニ依リマスルト云フト、其附加保險料ト云フモノハ純保險料ノ三割位デアリマス、斯様ニ相成ッテ居リマシテ、餘程其割合ガ安クナッテ居ルノデアリマス、是等ガ又一ツノ大切ナル箇條デアアルノデアリマス、デ此法ヲ以テ經營ヲ致シマスレバ無益ナル紛擾モ起サズ、平穩無事ノ間ニ其目的ヲ達シテ、多數ノ下級民ノ幸福ヲ増進スルコトガ出來ルト信ズルノデアリマス、尙ホ詳細ナルコトハ委員會ニ於テ説明ヲ致シマスル積リデアリマス、又第二ノ簡易生命保險特別會計法案デアリマスガ、是ハ右ノ生命簡易保險ニ關聯イタシマシタ所ノモノデアリマシテ、保險ノ事業ハ永遠ニ將來ニ於ケル被保險者ノ生死ニ關スル約束ヲ扱フモノデアリマスカラ、從ッテ其保險料ト申シマスルモノハ、保險

技術ノ定メル所ニ依ッテ定タ所ノ比率ニ基イテ前取リヲスル部分ヲ含ンデ居リマス、保險金ヲ拂ッタ其剩餘ヲ含ンデ居ルノデアリマスルカラ、適當ニ之ヲ利殖シツツ保管スル必要ガアルノデアリマス、而シテ是等ノ資金ハ通常普通ノ歳入歳出トハ自ラ其趣ヲ異ニスルモノデアリマスカラ、別途ノ方法ヲ以テ收入支出ノ關係ヲ明カニスルト云フコトガ必要デアリマスルニ依ッテ、特別會計ヲ設定シテ之ニ依ッテ管理ヲシテ參ル、斯様ナ案デアリマス、何卒御審議ノ上協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○鎌田榮吉君 一應質問ヲ致シマス、唯今ノ御説明ニ依リマスルト云フト、強制ヲ加ヘズシテ是ハ官營保險ヲセラレヤウデアリマス、而シテ健康診斷ヲ致サズニ總テ平等ノ保險ヲスル、其結果ハ如何ナルモノデゴザイマス、比較的病身ノ者ガ多ク被保險者トナッテ、死亡率ガ非常ニ多クナル、ソレデ以テ官營ハ元ト非營利デアアルト雖モ立行クモノデアアルカ、其點ニ少々疑ヲ抱キマスガ、ソレトモ其利殖法ハ何カ非常ニ利率ガ上ボルト云フ見込ガアレバ格別デアリマスガ、其邊ヲチヨット伺ヒタイ

〔國務大臣箕浦勝人君演壇ニ登ル〕

○國務大臣〔箕浦勝人君〕 御尋ノ通り死亡率ハ餘ホド高イノデアリマス、普通ノ保險デアリマスルト醫者ガ診斷ヲ致シテ健康體ヲ選ンデ取ルノデアリマスルガ、是ハ醫者ノ診斷ヲ……診察ヲ用ヒズニ、素人ガ眼デ見テ先ヅ宜カラウ、健康デアルト見タノヲ取ルノデアリマスカラ、其點ハ餘ホド危險ガ多イ譯デアリマス、ソレデ此死亡率ノ基礎ヲ内閣ノ第二ノ統計ノ死亡率ヲ基ト致シ、ソレニ二割ヲ増シタモノガ基礎トナッテ居ルモノデアリマシテ、餘ホド死亡率ハ高イ、大體斯様ナ仕組デアリマスルト、餘ホド其大仕掛デ……大仕掛デアラネバドウシテモ平均ハ取レヌ、ソレ故ニ此獨占ト云フコトノ必要ハソコカラ起ッテ來ルノデアリマス、大仕掛ニヤッテ行ケバ平均ガ始メテ僅ニ取レテ來ルト云フコトデ、先ヅ非常ニ……無論危險ノ多イト云フコトハ見テ居リマス、ソレ故ニ併ナガラ或ハ素人ノ眼ヲ晦マスト云フ譯デアアリマセヌガ、併ナガラ幾ラカ欺イテ非常ナ不健康者、モウ其生命ガ長クナイト云フ人ガ紛レ込ンデ來テ、一層此死亡率高クスルト云フヤウナ危險ガ……詐欺ノ手段等ニ依ッテ一層危險ヲ高メルト云フコトガナイ爲ニ、謂ハユル其制限……期間ガ定メテアリマス、一年ニドウスルト云フヤウナコトガ簡條ニ定メテアリマスのデ、先ヅ此仕組ニ依リマスレバサウ云フ困難ナ事業ヲ……事情ヲ排斥シテ

進ムコトガ出來ル、斯様ニ考ヘテ居リマス

○鎌田榮吉君 唯今ノ御説明デハマダ少シ満足ガ出來マセヌ、私ノ考デハ大仕掛ト言ヒマスケレドモ、大仕掛ニスレバ即チソレダケ危險モ大仕掛ニナリハシマセヌカ、如何トナレバ、此比較的虛弱ナル者ガ多クナルト云フ割合ハ、是ハ強制的ニ總テノ人ヲ……總テノ勞働者ナラバ勞働者ヲ保險スル、必ズ保險ヲスル、例ヘバ或ル外國等ニ行ハレル如キ社會政策トシテ、本人モ、雇主モ、政府モ、共同シテ保險金ヲ出シテ保險スル、サル代リニ總テ保險ヲ附サナケレバナラヌ、斯ウ云フコトニスレバ人ノ強弱ニ拘ラズ、ソレハ勞働者デアリマスカラ或ル健康體……或ル程度ノ健康體デアアルニ違ヒナイ、ソレヲ平等ニ保險スレバ平均ハ取レル、平均ハ取レマスケレドモ、隨意保險ト云フコトニナルト、先ヅ雇主……同ジ家族ノ中デモ弱イ者ヲ入レテ強イ者ガ這入ラヌデ居レバ、保險金ヲ取レルト云フ機會ガ多イノデアリマスカラ、サウ云フコトニシテ之ヲ全國ニ布イタナラバ非常ナル危險ノ割合ハ是レガ大仕掛ニナレバナルダケ危險ト云フモノモ大仕掛ニナリ、國家ハ其責任ニ任ゼナケレバナラヌコトニナッテ來ル、私ハ其點ニ付テ最モ惧レル、ソレハ縱令詐欺的デナクテモ是ハ人情トシテサウ云フコトニナル傾ガアル、殊ニ此官營ニナリマスト云フト、此分擔ト云フモノガ……私立會社デモアリマスケレドモ、分擔ガソレ……嚴重ニナリ、募集スル者ハ成ルベク多クノ被保險者ヲ募ッタ者ガ先ヅ成功デアアル、隨ッテ其人ハ昇級モ速イト云フコトニナル、又他ノ此保險金ヲ拂出ス者ハ拂出ス者デ……例ヘテ言ッテ見ルト云フト、賣ル者ハ先方ノ信用如何ニ拘ラズ多ク賣レバソレデ以テ自分ノ仕事ハ舉タトスル、其賣掛代金ヲ取入レル者ハ又外ノ人ガヤッテ居ルト云フコトデ以テ、官營事業ニハ往々失態ヲ起シテ居ル、保險業ト云フモノモ矢張り同一ノ失敗ヲ繰返スコトガナイデハナイカト私ハ甚ダ心痛ニ堪ヘナイ、ソレトモデス、此政府ニ限ッテ何カ特ニ此保險料ノ利殖法ト云フモノガアッテ多クノ利ヲ取ルト云フ方法ガアルナラバ是ハ特別デアリマスガ、私ハ別ニ私立ノ保險會社ヨリ政府ハ保險料ヲ多ク高利ニ廻スト云フ名法ガアラウトモ思ハナイ、サウシテ見ルト同ジ利殖法ヲ以テヤッテ、而シテ今ノ如ク非常ナル危險ノ割合ガ多クナッテ來ルト云フコトハ、ドウシテ是ガウマク行クモノカト云フコトニ付テ甚ダ懸念ニ堪ヘナイ

〔發言ノ許可ヲ求ムル者アリ〕

チヨットマダ私ガ……

○議長(公爵徳川家達君) 鎌田榮吉君ハ政府ニ對スル質問デゴザイマスカ
○鎌田榮吉君 質問デアリマス、其點ニ付テデス、斯ウ云フ風ニ利殖ヲ圖ル
故ニ危險ガ多クナッテ死亡率ガ増シテモ保險金ハ確カニ拂フコトガ出來ル、而
シテ國庫ニ何等ノ累ヲ及ボサス、斯ウ云フコトニ付テ御見込ガアルヤ否ヤト
云フコトヲ伺ヒタイ

〔政府委員松本蒸治君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本蒸治君) 唯今ノ御質問ニ付キマシテハ稍、詳細ノ點ニ涉リ
マスカラ、私カラ御答辯ニ及ビマス、唯今ノ御質問ハ極メテ御尤デゴザイマ
ス、我々モ此點ニ付テハ十分考察シタモノデゴザイマス、即チ遞信大臣
ガ述ベラレマシタ通り、一般ノ此國民死亡表ヲ取りマシテ、尙ホ之ニ二割ノ
増加ヲシマシテ、之ヲ基礎トシテ純保險料ヲ計算シテ居ルノデゴザイマス、
尙ホ唯今述ベラレマシタ通り制限期間ト云フヤウナ定メヲ致シ、又他ニ詐欺
ノ方法等ニ據ッテ加入シタ者ニ對シマシテハ契約ヲ無効トスルヤウナ制度モ
設ケマシテ、詐欺的ニ此虛弱者ガ這入ルト云フコトニ對シマシテハ十分ナル
防止方法ヲ採ッテ居ルノデアリマス、而シテ外國ノ此簡易保險ノ成績カラ見マ
スルト、外國ニ於キマスル簡易保險ノ經營ハ、誠ニ大體ニ於キマシテ我々ガ
採ッテ居リマスル所ノ此ノ死亡表ト略、同様ナルモノヲ基礎ト致シマシテ、純
保險料ヲ計算シマシテ、之ニ依ッテ經營シマシタ結果トシマシテ、決シテ失
敗ニッテ居リマセヌ、ノミナラズ寧ロ利益ヲ餘計舉ゲ過ギテ居ルト云フヤウ
ナ結果ヲ來タシテ居ルノデアリマス、デ是カラ見マスルト、此政府ノ考察シ
テ居リマスル所ニ依リマシテ計算イタシマシテモ、決シテ此關損ヲ生ズルト
云フ虞ハナイコトト信ジテ居リマス、而シテ此放資ノ方法ニ付キマシテ、何
等カ政府ハ特ニ民間ノ事業者ヨリ高イ利率デ放資スル考ガアルノデハナイカ
ト云フ御尋デゴザイマスガ、是ハ寧ロ反對デゴザイマシテ、民間ノ事業ハ高
イ利ヲ選ビマシテ、成ルベク高イ利ナラバ如何ナル事業デアッテモ其利息ノ高
イ所ニ放資スルト云フコトヲヤリマスガ、政府ノ此簡易保險ニ依ッテ集メ得
マシタ所ノ積立金ノ類ハ斯ノ如キ方針ニ依ッテ放資ヲシナイ積リデゴザイマ
シテ、寧ロ低イ利……多少低イ利デアリマシテモ確實デアリ、且ツ其事業ノ
性質上、社會全體ノ幸福ヲ増進スルガ如キ公共的性質ヲ有ッテ居ル或ル事業ニ
放資ヲシタイト云フ考ヲ有ッテ居リマス、其結果トシマシテ、此放資ノ利息ハ
民間ノ事業ト比ベマスト寧ロ低ク見積ッテゴザイマシテ、即チ謂ハユル豫定利

率ナルモノハ、民間ニ於キマシテハ通常四分或ハ四分以上ト云フコトニナッテ
居リマスガ、此經營セムトスル簡易保險ニ於キマシテハ三分五厘ト云フヤウ
ニ豫定率ヲ見積ッテアリマス、而シテ此豫定率及死亡表ニ基キマシテ總テ計算
ヲ立テテアルノデアリマスカラ、利息ノ安イト云フコトヲ豫メ見積ッテ計算ガ
立テテアル次第デゴザイマスカラ、萬邊算ヲ生ズル虞ハナイト云フコトヲ確
信シテ居ル次第デゴザイマス

○鎌田榮吉君 唯今ノ政府委員ノ御説明ニ依リマスト外國ノ例ヲ御引キニナ
リマシタガ、成ルホドサウ云フコトモアリマセウ、併ナガラ此低利資金ヲ公
共團體其他ニ供給スルト云フコトハ如何ニ確實デアッテモ、民間ノ保險會社
ト雖モ矢張り確實ナル放資ノ方法ヲ選ンデ居ル、而シテ相當ニ高イモノデア
ル、ソレデ三分五厘低利資金ヲ融通シテ、而カモ隨分是ハ回收ニ困難ナル
方面ニ向ッテ放資スルモノデアリマシテ、唯單ニ此利息ダケヲ以テ營業ガ出
來ル、例ヘバ銀行業デ以テ配當ヲシテ居リサヘスレバ宜イト、斯ウ云フコ
トナラバ宜イケレドモ、保險金ト云フノハ元金其モノヲ全體ニ拂フ仕事デア
ル、然ルニ其回收ハ非常ニ長期ニシテ回收ニ困難デアル、低利資金ヲ放資シ
テソレニ依ッテ満足ニ此保險金ヲ掛ケテ、元金ヲ戻ス性質ヲ有ッテ居ル、保險
ヲ安全ナラシムルコトニ付テハ益、私ハ迷ハザルヲ得ヌ、高ク政府ガ放資シテ
而シテ此法律ノ保險金ヲ拂フト云フコト、又病人健康者ノ診斷ヲ醫者ニ依ラ
ズシテヤラセルコト、低利資金ヲ融通シツツ一方ニ於テ之ヲ割ノ惡イ保險金
ヲ拂フト云フコトニナルト、ドウシテモ矛盾スル、チヨット聞クト大層宜イヤ
ウダケレドモ、一方ハ低利資金ニシテ、一方ハ病人ヲ保險シテヤル、是ハ仁政、
堯舜ノ政デモ是レ以上ニハ行クマイト思フ、サウ云フコトヲ西洋ノ諺デ云ヘ
バーツノ材料ヲ以テウマイ汁トウマイ肉ハ出來ナイ、成ルホド一ツノ牛肉ヲ
煮出セバ、汁ハウマクナルガ、身ガマヅクナル、身ノ方ヲウマクスレバ、汁
ノ方ガウマクナルナル、然ルニ汁モ身モ兩方ウマクシヤウトハ巧ナ方法デア
リマスガ、實際ハ其反對ノ結果ヲ見ヤシナイカト云フコトヲ憂慮スル、ソレ
ト同時ニ此遞信大臣ノ云ハレル如キ詐僞者ノ契約ハ無効ニスル、何ヲ以テ詐
僞ト云フ、今日ノ保險業者ナラバ例ヘバ……

○議長(公爵徳川家達君) 成ルタケ簡明ニ質問ノ趣意ヲ御述ベニナルコトヲ
切ニ望ミマス

○鎌田榮吉君 併シハ少シ長ク云ハスト質問ガ出來マセヌ……ニ掛ッタモ

ノハ詐偽デアリマス、サウ云フコトハ總テ醫者ガアッテ分ルノデアッテ、醫者ガ例ヘバ總テ身體ヲ量リマシテ、ソレニ依ッテソレヲ標準トシテ行キマスケレドモ、素人ガ唯見テ、其時ノ話ヲ素人ガ素人カラ聞イタコトヲ標準トシテ、後カラ詐偽ヲシダトカセヌトカ云フコトハ是ハ水掛論デ連モイカヌ、ソレトモウ一ツ民業壓迫ト云フコトヲ當業者ハ非常ニヤカマシク云フコトデアリマシテ、是モドウデアリマス、ヤリヤウニ依ッテハ民業壓迫ニモナリマス、又當業者以外ノ者ハ皆贊成ヲスルコト云フ話デアリマス、是ハ何事モサウデアリマス、今茲ニ酒屋ヲ多クスルト云フコトハ、官營デモ民業デモ酒屋ヲ多クスルコトハ酒飲ミハ喜ブガ、當業者ノ酒屋ニ異存ガナイカト云ヘバ其事ハ宜イト云フコトハ言ハス、又當業者バカリノ説ヲ聞イテ見ルト必ズ反對ガ多イニ相違ナイ、ソコハ即チ雙方公平ニ御判斷ニナラナケレバナラナイト思ヒマス、其點ニ付テ私ハマダ了解シナイ、マダ澤山伺ヒタイコトモアリマス、ソレハ他ノ機會ニ於テ御説明ヲ願ヒマス、此兩點ダケヲ伺ッテ置キタイト思ヒマス

〔政府委員松本蒸治君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本蒸治君) 唯今ノ御問ニ對シマシテ極メテ簡單ニ要點ダケヲ御答シタイト思ヒマス、第一ニ私ガ豫定利率三分五厘ト云フコトヲ申シマシタ爲ニ、少々御誤解ヲ生ジタヤウデアリマス、是ハ甚ダ恐縮デゴザイマス、豫定利率ト申スモノハ集メ得タ總テノ金ヲ運轉スル率ニ對シテノ最少率デアリマス、各箇ニ放資スル場合ニハ是ヨリ高クナラナケレバナラナイノデアリマス、何トナレバドウシテモ遊ンデ居ル金ハアリマス、斯ウ云フモノニ付キマシテハ利息ガ付キマセヌノデゴザイマス、又回收セラレ得ナイヤウナ金ガ萬出來ナイト云フヤウナコトハ云ヘマセヌ、サウ云フモノヲ總テ合セラレテ最少利率トシテ幾ラノ利率ト見ルカラ計算ノ基礎トシテ、純保險料ヲ計算スル基礎トシテ幾ラノ豫定利率ヲ決メルカ、之ヲ三分五厘ト申シタノハ各箇ノ放資ハ勿論ソレ以上ニナリマス、唯今ノ豫定デハ大體五分グラキナモノデハナカラウカト考ヘテ居リマス、ソレカラシテ放資ニ依ッテ社會全體ノ幸福ヲ増進スルヤウナコトヲスル、又簡易保險自體ニ於テモ社會全體ノ幸福ヲ計ルコトハ甚ダ無理ダト云フ御話デゴザイマス、是ハ議論ニ涉リマスカラ申上ゲマセヌ、外國ニ於キマシテモ此強制的ニ勞働者保險等ニ於キマシテハ之ニ依ッテ集メ得タ所ノ資金ヲ多クハ社會的事業ニ供用イタシマス、獨逸ノ如キハ十數億馬克ヲ社會的事業ニ供用シテ居リマス……

〔鎌田榮吉君……豫定ト云フコトハ、強制デナイカラ質問ガ起ルト述フ〕

此放資ト保險ト兩方ノ目的ヲ達シ得ルト云フコトノ例トシテハ、強制デアルトナイトハ何等違ヒガナイノデアリマス、サウシテ其例ヲ申上ゲマシタケデゴザイマス、尙ホ詐偽ノコトニ付キマシテハ、是モ少シ御誤解ガアッタヤウデアリマス、私ノ説明ガ足りナカッタ爲ト思ヒマス、詐偽ト申シマスノハ、此保險ニ於キマシテモ病人ヲ取ル趣意デハゴザイマセヌ、契約申込書ニハ極メテ重要ナル既往ノ疾病、現在ノ疾患ニ付テ聞クノデアリマス、又其人ハ一應ハ見マシテ而シテ加入セシムルト否トヲ決スル積リデアリマス、是ニ於キマシテ病人デアルニ拘ラズ他人ヲ以テ身代リト致シマシテ、健康ナル人間デアルト云フコトヲ示シマシテ而シテ加入スルト云フヤウナコトガアリマシタキニハ之ヲ詐欺トシテ無効トスル、サウ云フ趣意デアリマス、尙ホ民業壓迫ノ點ニ付キマシテハ是ハ議論ニナリマス、此保險ハ主トシテ小額ナルモノヲ相手トスルノデゴザイマシテ、即チ二十圓以上三百圓ニナッテ居リマスガ、唯今ノ所ノ計算デハ平均ガ七十五圓ト云フ積リデアリマス、即チ此民間ノ事業ノ平均額ノ五六百圓以上ト云フモノト全然性質ヲ異ニスルモノデアリマシテ、壓迫ノ如キ事實ヲ生ゼナイト信ジテ居ルノデゴザイマス

○男爵高木兼寛君 此保險法ヲ設定セラルルニ付キマシテハ死亡ノ標準、即チ標準死亡率ハ我が國民ノ死亡率ヲ土臺トシテ……基礎トナサルノデゴザイマス、果シテサウデゴザイマスレバ十二歳以上六十歳マデノ死亡率ハ既往二十年ナリ、乃至三十年ノ間如何ナル經過ヲ經テ居リマス、之ヲ伺ヒタイノデゴザイマス、次ニ伺ヒタイコトハ外國ノ簡易保險法ノコトデゴザイマス、外國ニ於キマシテ之ヲ實行スル死亡標準ナリ、ソレト彼ガ舉ゲテ居ル所ノ成績トハ如何ナル關係ヲ有ッテ居リマス、之ヲ伺ヒタイノデゴザイマス、次ニ國民ノ死亡率ト外國ニ於テ實行イタシテ居ル簡易保險法ノ成績ヲ伺ヒタイ、何レノ國ガ最モ良キ成績ヲ舉ゲテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイノデゴザイマス、次ニ伺ヒタイノハ身體ノ検査ヲ致サズ保險ヲ付スルコトガ出來ルト云フコトニナリマスレバ、健康ノ良否ハ問フニ及バズ、唯ミ生命ガ存スレバ保險ガ出來ルト云フコトニナルノデアリマス、ソレ故ニ身ノ健康不健康ハ敢テ意トスルニ足ラヌ、生キテサヘ居レバ保險ヲ付スルコトガ出來ルト云フ心持ヲ國民ニ生ゼシムルト云フコトハ疑ナイ事實デアラウト思フ、國民ノ體力

上カラ見マスレバ身體ガ健全デナケレバ保險等ヲ付スルコトガ出來ナイモノ
デアル故ニ、成ルタケ健康ヲ保護シナケレバナラヌト云フ思想ヲ國民ニ有タ
シムルコトガ必要デアル、然ルニ健康ノ何如ヲ問ハナイデ宜イ、病體デモ金ニ
ナルト云フガ如キ思想ヲ國民ニ有タセルト云フコトハ、甚ダ國家ニ取リマシ
テハ不利益ナ思想ニナリハセヌカト云フ考ヲ本員ハ有ッテ居ルノデアリマス
ガ、政府ニ於キマシテハ斯ノ如ク無診察デ、病人デアッテモ保險ヲ付スルコト
ガ出來ルト云フヤウナ方法ハ國民ノ體力上ニハ無關係ナルモノデアルト云フ
御考デ御居デニナリマセウカ、政府ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス

〔政府委員松本丞治君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本丞治君) 唯今ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、此保險ニ於キマ
シテハ内閣統計局デ作成イタシマシタル第二ノ國民死亡表ヲ基礎トシテ純保
險料其他ノ計算ヲ致シテ居リマス、日本ニ於キマシテハ第一ノ國民死亡表ト
第二ノ國民死亡表ノ二種シカゴザイマセヌ、其差異等ノ瑣末ノ點ニ至リマシ
テハ能ク取調ヲ致シマシタ上、委員會等ニ於テ御報告イタシタイト考ヘテ居
リマス、而シテ外國ニ於ケル簡易保險事業ガ何レノ國デ最モ發達シテ居ルカ
ト云フヤウナ御尋ノヤウニ存ジマスルガ、大體ニ於キマシテハ英米獨ト云フ
三國ニ於キマシテハ簡易保險事業ガ最モ發達イタシテ居リマスル、而シテ是
等ノ簡易保險ハ皆主トシテ身體検査ヲ用ヒズシテ保險ニ入レルト云フ制度ヲ
執ッテ居リマス、而シテ是等ノ各國ニ於キマシテハ簡易保險ガアリマスル故ヲ
以テ國民ノ健康狀態ガ惡ルクナルト云フコトノ實蹟ハ毫モアリマセヌノミナ
ラズ、學者等ニ於キマシテモ左様ノ見解ヲ探ッテ居ル者ハ殆ドナイヤウニ存ジ
テ居リマス、從ッテ此簡易保險ヲ實施イタシマシタ結果ト致シマシテ、決シテ
國民ノ體格健康狀態ニ不良ナル結果ヲ生スルヤウナコトハ萬ナイコトト信ジ
テ居リマス

○男爵高木兼寛君 マダ本員ノ質問ニ對シテハ御答辯ノ殘リガアルト思フノ
デス、併シソレダケデアルト云フコトデアリマスレバ、更ニ御尋ネヲ致シマス、
獨逸、英國等ノ國民ノ健康ノ狀態ト日本國民ノ健康狀態ハ同一ナモノト御認
メニナッテ居リマスカ、若シサウデナケレバドノ位ノ違ヒガアルト當局者ハ御
認ニナッテ居リマスカ

〔政府委員松本丞治君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本丞治君) 唯今ノ御質問ハ多少本政府委員ノ専門ト致シテ居

ル所ト離レテ居リマスルノデ、明確ナル御答ヲ申上ゲルコトガ出來ヌカト思
ヒマスルガ我々ノ考ヘテ居リマスル所ニ依リマスレバ、勿論是等ノ先進國ニ
於ケル國民ノ健康狀態ハ日本ヨリモ遙ニ進ンデ居ルモノト考ヘテ居リマス、
而シテ是等ノ先進諸國ノ狀態ヲ見マスルニ簡易保險ガ始マリマシテ後ニ於テ
健康狀態ガ益々寧ロ良クナッテ來テ居ルト云フコトニ認メテ然ルベキモノカ
ト考ヘマス、左様デアリマスルカラ我國ニ於キマシテモ此簡易保險實施後ニ
於キマシテ健康狀態ガ改良……之ガ爲ニ改良セラレルトカ、或ハ惡ルクサレ
ルトカ云フヤウナコトハ別ニナイコトト信ジテ居ルノデアリマス

〔政府委員松本丞治君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本丞治君) 唯今御答ヲ致シタ積リデ居リマスルガ、簡易保險
ニ依ッテ直接ニ健康體格等ガ改良サレタモノトハ考ヘテ居リマセヌ

○男爵高木兼寛君 我ガ帝國ノ國民ノ死亡率ハ漸次高マリツツアルヤウニ見
受ケルノデアリマスガ、若シ高マリツツアレバ保險ノ率ハ自ラ變更ヲ來タサ
ナケレバナラヌ、斯ウ云フ譯ニナルノデアリマス故ニ、幾年ノ後マデ御見越
シニナッテ今日ノ基礎ガ立ッテ居ルノデアリマスカ

〔政府委員松本丞治君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本丞治君) 御答イタシマス、唯今經營セムト欲スル保險料ハ
唯今經營セムトスルダケノ範圍ニ於テノモノデゴザイマスカラ、勿論死亡率
ハ我々ノ信ズル所デハ、他ノ手段ニ依リマシテ段々ニ低クナル、即チ國民ノ
衛生狀態ハ改良サレナケレバナラヌト云フコトヲ信ジテ居リマス、又改良セ
ラルベキ所ノ百般ノ施設ヲ政府ハ執ラナケレバナラヌト云フコトヲ考ヘテ居
リマスガ、不幸ニシテ死亡率ガ高マルト云フヤウナコトガゴザイマスレバ、
其實質ガ明カニセラレマシタトキニ於テハ、將來ノ計畫ニ付テハ勿論其高マ
タ死亡率ニ依ッテ、保險料ヲ變更シテ經營スルノ外ハナイト云フコトヲ考ヘテ
居リマス

○男爵田健治郎君 此二案ハ重要ナル法律案ト存ジマス、此特別委員ノ數ハ
十五名トシテ、議長ヨリ指名セラルルコトヲ希望イタシマス

○谷森眞男君 賛成

○男爵眞田幸世君 贊成

〔其他「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 田男爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

簡易生命保險法案外一件特別委員

伯爵林 博太郎君 子爵前田 利定君 子爵本多 忠鋒君

仲小路 廉君 小松 謙次郎君 山本 達雄君

男爵眞田 幸世君 男爵長松 篤渠君 富井 政章君

山之内 一次君 水野 鍊太郎君 桑田 熊藏君

荒井 泰治君 鎌田 勝太郎君 日高 榮三郎君

○議長(公爵徳川家達君) 第三、重要物產同業組合法中改正法律案、政府提出、第一讀會

重要物產同業組合法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正五年二月十七日

内閣總理大臣 伯爵大隈重信
農商務大臣 河野廣中

重要物產同業組合法中改正法律案

重要物產同業組合法中左ノ通改正ス

第八條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ必要アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

第十條ノ二 前條第一項ノ検査ヲ行フ同業組合及同業組合聯合會ニ在リテ

ハ検査員ヲ置クヘシ

検査員ノ選任及解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三 同業組合及同業組合聯合會ハ前條ノ検査員ノ服務ニ關スル規

程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ四 農商務大臣ハ重要輸出品ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合

會ノ申請アルトキ又ハ必要ト認ムルトキハ其ノ役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル役員ノ解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

重要輸出品ノ種類ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十三條 農商務大臣ハ同業組合又ハ同業組合聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ經費ノ豫算又ハ其ノ

徵收法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條中「又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得」ヲ「若ハ定款ノ變更ヲ命シ又ハ同業組合聯合會ヘノ加入若ハ同業組合聯合會ヨリノ脱退ヲ命スルコトヲ得」ニ改ム

第十九條 第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ二 同業組合及同業組合聯合會ノ役員第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ三 同業組合及同業組合聯合會ノ役員検査員其ノ他事務ニ従事スル者正當ノ理由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ本法ニ依ル職務ノ執行ヲ

拒ミ之ヲ妨ケ若ハ之ヲ忌避シタルトキ又ハ職務ノ執行ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ四 非訴事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ

偽造若ハ變造ノ證票若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ二 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ

處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十條ノ三 前條第一項ニ掲クル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十條ノ四 第二十條ニ掲クル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第二十條ノ二ニ掲クル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前選任セラレタル検査員ニ付テハ本法施行後一月内ニ其ノ選任ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ期間内ニ認可ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ期間満了ノ日、申請ニ對シ不認可ノ指令アリタルトキハ其ノ指令ノ日ニ於テ検査員ハ解任セラレタルモノト看做ス

検査員ハ前項解任ノ日迄從前ノ例ニ依リ職務ヲ行フコトヲ得

前三項ノ規定ハ本法ニ依リタル他ノ法律ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ニ關シ之ヲ準用ス

刑法施行法第二十七條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 削除

〔國務大臣河野廣中君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(河野廣中君) 重要物產同業組合ハ明治三十三年ノ制定ニ係リマシテ、爾來實施シ來リマシタ、昨年末ノ現在ニ依リマスレバ、同業組合數ガ一千二十、聯合會ノ數ガ四十六ニナリテ居リマス、其一年間ノ經費ハ約三百萬圓ニ達シテ居リマス、然ルニ組合及聯合會中ニ成績ノ良好ナラザルモノガ甚ダ少クゴザリマセヌノデアリマス、ソレ故ニ此同業組合法ヲ改正シテ、是ガ有效ナル活動ヲ圖ルノ必要ナルコトハ朝野ノ共ニ認ムル所トナリマシテ、農商務省ハ曩ニ改正案ヲ具シマシテ地方長官ニ諮詢ヲ致シ、又商業會議所ニ諮詢ヲ致シ、後生産調査會ニ諮詢ヲ致シマシテ、何レモ其意見ヲ徵シマシテ、爾來引續イテ是ガ調査ニ從事ヲ致シテ居リマシタ、偶々今次歐洲ノ戰亂ニ際シマシテ、我ガ輸出貿易ハ頗ル良影響ヲ受ケマシテ、輸出品ノ増加ヲ見ルコ

トニ至リマシタ、斯ル場合デゴザイマスノニ粗製濫造等ノ虞モアリマス、旁、以テ此際ニ輸出品ノ検査ヲ嚴重ニ致シマシテ、粗製濫造ヲ取締リマシテ、而シテ我ガ貿易ノ發展ヲ永遠ニ圖ルノ必要ヲ感ジマシタガ爲ニ、本案ヲ茲ニ提出ヲ致シマスル次第デゴザイマス、其改正ノ要點ニ至リマシテハ、組合及聯合ノ機關ヲ精選シ、嚴正ニ其職務ヲ行ハシムルガ爲ニ、監督ノ規定ヲ置キマシタ、殊ニ此重要輸出品ニ關シマシテハ、組合及聯合會ノ役員及検査員ニ付キマシテハ、其選任及解任ニ付キマシテハ特別ノ規定ヲ設ケマシタ次第デゴザイマス、其他ハ數年來ノ實施ノ結果不備ノ點モゴザイマスルガ爲ニ、之ヲ改正イタシマスル次第デゴザイマス、茲ニ本案ヲ提出イタシマシタ次第デゴザイマス、冀ハクハ御審議ノ上御協賛アラムコトヲ切望ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

重要物產同業組合法中改正法律案特別委員

子爵一柳 末徳君 前田 正名君 男爵平野 長祥君

藤田 四郎君 岡田 良平君 石渡 敏一君

松尾 廣吉君 伊藤 由太郎君 鈴木 周三郎君

○議長(公爵徳川家達君) 第四、明治四十年法律第十一號中改正法律案、政府提出、第一讀會

明治四十年法律第十一號中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正五年二月十七日

内閣總理大臣 伯爵大隈 重信
内務大臣 博士一木喜徳郎

明治四十年法律第十一號中改正法律案

明治四十年法律第十一號中左ノ通改正ス

第四條ノ二 前條ノ療養所ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被救護者ニ對シ必要ナル懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

第七條中「沖繩縣及」ヲ削ル

〔國務大臣一木喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(一木喜徳郎君) 明治四十年法律第十一號、即チ癩豫防法ニ依ル癩療養所ニ收容セラレマシタモノニ對シマシテハ、懲戒及檢束ヲ加ヘルノ途ガ設ケテゴザリマセヌ、從來取締上之ガ爲ニ困難ヲ感ジマシタコトガ少クゴザイマセヌ、此現行法ノ不備ヲ補ヒマスルガ本案ノ重モナル目的デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ特別委員ハ齒科醫師法中改正法律案ト同一委員ニ付託スルコトヲ宣告イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 第五、醫師法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

醫師法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

大正五年二月十六日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

醫師法中改正法律案

醫師法中左ノ通改正ス

第八條第一項中「設立スルコトヲ得」ヲ「設立スヘシ」ニ改ム

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ特別委員モ齒科醫師法中改正法律案ト同一ノ委員ニ付託スルコトヲ宣告イタシマス、是ニテ本日ノ議事ハ終リマシタ、次ノ議事日程ハ決定次第御通知ニ及ビマス、本日ハ是デ散會ヲ致シマス

午前十一時三十一分散會